

URA の湯遍路旅日記 2014

——中国・タイ編——

浦 達 雄

1. はじめに

湯遍路旅日記シリーズはそろそろ佳境に入ったと思う。2014年の湯遍路の海外旅は中国・タイで行った。中国は北京と山西省の温泉でかわりばえしないが、色々と新たな発見がある。タイの場合は、今回は北タイのランパーン県とメーホンソン県などを訪問した。

さて、ここでは、紙面の関係で、その一部（筆者が面白いと思う内容）を紹介することにした。なお、これまでの湯遍路旅日記については、2012年8月発行の『URAの湯遍路旅日記－アジア・太平洋編－』（クリエイツ.）をご覧願えれば幸いである。

2. 春節後の北京行き（2014年2月20日～24日）

2014年2月20日から24日まで、恒例となった春節（旧正月）後の北京へ出かけた。今回の目的は、著書に『混浴宣言』があるジャーナリストのY嬢の北京温泉案内を兼ねている。

(1) 2014年2月20日（木）：円安・時計の電池交換・マッサージ・北京ダック

関西空港10時発NH159便で北京へ行った。現地時間12時17分、首都空港へランディング。机场（空港）快速に乗車。途中、東直門で乗り換えて、13時52分に北京駅へ着いた。

定宿の宝辰飯店には14時過ぎにチェックイン。部屋は636。フロントで両替を3万円分した。1万円は573.72円で、率が悪かった。1元は17.4円。円安のせいだ。部屋はNHKワールドが入った。72チャンネル。

ホテルが入居する「恒基商場」ビルの地下2階の時計屋で、電池交換をした。120元・20元・20元、そしてベルト交換28元、総計188元を160元に値切った。時計のレベル（質・ブランド）で値段が異なることになる。その間、目の前のマッサージ店で足のマッサージをした。60分で68元。安いと思った。全身は180元。

17時、地下鉄で和平門へ。その後、徒歩10分で、瑠璃廠に着いた。いつもの民俗酒樓で、王師傅と食事。2人で150元だった。内訳は北京ダック88元・カボチャの餅16元・マーボー豆腐15元・ご飯2元×2・ビール12元・花茶15元。17時50分から1時間ほど話し込んだ。

彼の話しでは、2013年11月、マンションを現金で買ったとか。50m²で30万元。部屋は5階の部分。戸権は48年とか。場所は沙河の北大橋。345路の快速バスが便利とのこと。よくわからないが…。

帰路は和平門から特2路のバスに乗車。北京駅前街に20分ほどで着くので便利。これは2階建バスとなる。

(2) 2014年2月21日(金)：マッサージ・小湯山・北京ダック

10時から昨日のマッサージ店で全身マッサージをした。180元。身体が硬いと言われた。その通り！

その後、Y嬢と一緒に小湯山へ。地下鉄・バスを乗り継いで、小湯山のバス停に12時45分に着いた。天通園北で地下鉄を降りて、643路のバスに乗り換える訳だが、時間帯によっては混むので要注意。

昼飯は亜州拉面という店で、拉面(ラーメン)12元×2人、羊串2個×2人の28元を消費。その後、小湯山双興温泉浴池で入浴。混浴宣言のY嬢なので、2人で家族風呂に入った。普間と高間があって、40元と60元。40元にしようと思ったら、満室だった。様子を見ると、女性が多く、年老いた母親とその娘と言うパターンだと思った。そこで高間にした。部屋の構成は手前にベッド、そして奥に風呂がある(写真1)(写真2)。風呂は広めで、蛇口から温泉が出ることになる。カランに硫黄成分が付いていた。ここの家族風呂は初入湯なので、料金が1人分なのか1部屋分なのか不明。最初に100元出して、帰路、鍵を番台に返したら、40元返ったので、たぶん1部屋あたり60元だと思う。そうすると安い。内湯は12元で、満員だった。

その後、小湯山村浴池に入浴。1人は6元。男湯は5人入浴中。やはり入浴マナーが悪い。浴槽で身体を洗う連中が多い。近くの老温泉は入浴せず。老温泉は、2013年11月、8元から10元になった。商店街でオレンジを買った。2kg10元で、14個くらいきた。50%オフとのこと。

15時15分、小湯山のバス停発。985路乗車。終点の天通園北で下車し、地下鉄に乗り換えて、17時20分、和平門へ着いた。17時40分から民俗酒楼で、王師傅、Y嬢と3人で食事。185元の支払いで、珍しく王師傅の支払いとなった。そして、Y嬢に印鑑プレゼントを約束していた。やはりオンナには優しいと思った。

帰路は、和平門から特2路のバスに乗車して、19時45分に北京駅前街のバス停に着いた。Y嬢も同宿となる。

(3) 2014年2月22日(土)：北京温泉会館・菊水亭

9時35分、地下鉄北京駅を出て、10号線の頤松に下車。A出口を出て、北京温泉会館には10分ほどで着いた。Y嬢がネットで調べたらしく、一番行きたいところみたい。当方は2回目。10時45分から入湯。日本で言えば、温泉サウナで、男女別裸入湯となる。昼飯付で、1人198元。北京では安いと思う。

12時、昼飯開始で、11時30分過ぎに行き、テーブルの場所取りをした。料理は食べ放題。風呂は薬池(浴槽)・43℃池・40℃池があって、露天風呂はクローズだった。美人湯・月光森林温泉がキャッチコピー。売り場面積は1.6万m²で、温泉は地下2,500mから沸いている。14時10分、頤松中路から674路のバス乗車。15分程度で北京駅東に着いた。これは近い。

17時から国際飯店の張氏・Y嬢の3人で菊水亭で日本食の食べ放題。3人で354元支払った。カード払いをした。

張氏の話は実に面白い。中国の場合、北に住む人の寿命は5歳短いらしい。北京はPM2.5で空気が汚れていて、娘の健康を心配している。

電動自転車の盗難の話。マンションの部屋は8階だが、部屋の前の廊下に自転車を置いたところ、泥棒されたいらしい。普段は電気の部分を取り外して、室内に入れる訳だが、その日だけ入れ忘れて被害にあったとか。奥方に叱られたが、あとの祭りになった。現在、管理人の責任を追及し、交渉をしている。1,680元の新車で3ヵ月前に購入したばかり。交渉の際に領収書が必要で、やっと探したらしい。したがって、現在、59路のバスで通勤している。マンションの管理費は1,180元/年を支払っており、マンションの管理は管理人の責任となる。現在、北京では泥棒が多発しており、スマホ・車・バイクなどが狙われているらしい。

次は保母さんの話。北京語では「月姆」。簡単に言えば、乳母のことである。子供が誕生してから、母親の代わりになって、子供を面倒見る職業である。家に住み込みで働き、ミルクをあげたり、オムツを替えたりするらしい。短くて1ヵ月、長いと半年とか1年もあるらしい。張氏の奥方は、3ヵ月半、保母さんのお世話になったらしい。奥さんの場合、2週間の入院で、出産の費用は800元、ベッドは120元/日。娘の名前は「媿迦」。2010年6月2日生まれで、張氏は3月4日生まれ。帝王切開は1週間入院するが、自然分娩は12時間で退院となる。1部屋に16ベッドとのこと。

問題は保母さんを雇うお金である。従来、24時間勤務で3,400元/月程度だったが、最近では6,800元、さらには1万円にアップしているらしい。

彼は、2011年5月9日に車で追突事故をおこして、その後、奥方から車の運転許可は出ていない。2014年1月の給料明細を見せてもらった。額面3,560元だが、手取りは2,155.38元。

その他、門限破りの話。12月末友達と食事をしていて、22時帰宅の予定がカラオケが延びて、未明の1時のご帰還となった。それで奥方は3日間口きかず。

娘の幼稚園は7時30分から17時まで、帰りは彼のお迎えとなる。政府系の幼稚園の月謝は1,200元/月、有名幼稚園は6,800元/月で、朝と昼ご飯付き。娘は漢字の勉強をしており、3歳で200文字を覚えた。2,300文字が目標らしい。英語の塾へ通っており、費用は1.3万円/年。ダンス・絵画の教室へ行く幼児もいるとか。なお、病気になると、本人の場合、政府負担65%、母親(80歳)は政府負担90%。

(4) 2014年2月23日(日)：権金城金沙国際酒店・石景山遊樂園・紅橋天楽玩具市場

Y嬢は今朝帰国したので、本日は石景山に行くことにした。ネット情報で温泉を発見したからだ。地下鉄1号線で石景山で下車。11時30分から探し歩いたが、なかなか見つからず…。結局、もと来た道に戻って、やっと権金城金沙国際酒店に着いた。フロントで「温泉？」と聞くと、温泉ではなく、どうやら温浴施設らしい。18時間98元と書いてあった。自助とあるので、入浴すると食べ放題らしい。フロントは温浴の関係で温度が高かった。薬浴・火山浴などがあるみたい。結局、入らずに辞去した。

帰路、石景山遊樂園へ行った(写真3)。キャラクターコピーのまがいもので騒がれた遊園地である。入園料は10元で、園内を少しだけ散歩した。人出はまあまあ。

1時間ほどいて、地下鉄を乗り継いで、紅橋天楽玩具市場へ行った。2階のいつもの店で、招き猫を買った。1階で調べると、中の大きさの猫は45元と高い。結局、中の猫2個、小の猫4つで、200元になった。安いかどうかは分からない。

バス39路で北京駅へ戻り、15時過ぎに恒基商場地下1階のフードコートで、亜州拉面

(ラーメン) を食べた。11 元と安い。ホテルで休憩して地下鉄で和平門へ。

17 時 45 分から民俗酒楼で王師傅と夕飯。2 人で 90 元だった。注文していた判子代は、11 本で 1,000 元。1 本 100 元の計算だ。Y 嬢のために、1 本準備していたが、彼女は帰国しており、当方が帰国後、郵送することになった。彼のスマホは 600 元らしい。持参していた紙は瑠璃廠で購入したが、200 元が 400 元に値上げしたので、怒っていた。その通りでしょう。19 時、特 2 路のバスで、北京駅前街に着いて、ホテルへ。

(5) 2014 年 2 月 24 日 (月) : 帰国

10 時起床。地下鉄と机场快速で北京首都空港へ。12 時に着いた。ANA カウンターの D 20 にチェックイン。スーツケースの重さは 17.6 キロ。出国後、12 時 50 分に搭乗ゲート E 20 付近へ。ここには休憩シートがあるので、それを毎回利用している。携帯の充電するコンセントも傍にあるので便利。1 時間ほど休憩をした。NH 160 の関空へのフライトは 14 時 35 分で、結局、19 時 10 分過ぎに東佐野の宿舎に着いた。機中、機内誌に温泉津温泉が登場しており、旧知の温泉施設が紹介されていた。

3. GW 前の北京と山西省行き

2014 年 4 月 24 日から 28 日まで、GW 前の北京と山西省へ出かけた。4 月 30 日までの予定だったが、4 月 28 日に緊急帰国をした。

(1) 2014 年 4 月 24 日 (木) : 円安・時計の電池交換・マッサージ・北京ダック

いつものように関西空港 10 時発 NH 159 便で北京へ行った。現地時間 12 時 36 分、首都空港へランディング。荷物を受け取る前に、国際飯店の張氏、王師傅へ電話した。

そして、珍しく空港バスに乗った。バスはいつのまにか 16 元から 24 元に値上げしていた。1 時間ほどで北京駅へ着いた。ホテルは宝辰飯店で 14 時 40 分にチェックイン。部屋は 648。フロントで両替を 3 万円分した。1 万円は 587.4 元。1 元は 17.0 元。

いつものように「恒基商場」ビルの地下 2 階の時計屋で電池交換をした。電池 50 元×2 個、それからベルトの交換をした。60 元。

前門まで地下鉄で行って、その後、徒歩で瑠璃廠まで行った。我らが楊梅竹斜街は、洋風の街に変わって、散髪屋などが数軒に減っていた。残念。珍しく王師傅が遅刻して、18 時 45 分から 1 時間、民俗酒楼で夕飯を食べた。178 元。北京ダックは本体が 68 元、ネギ・タレなどは 20 元。いつものように判子を注文した。

20 時、特 2 路のバスで北京駅前街へ。15 分で着いた。明日、太原へ行く訳だが、朱先生、奥方の王さんへ電話して、打ち合わせをした。少し予定変更があるみたい。

(2) 2014 年 4 月 25 日 (金) : 紅色老区文化農業園・神湯都温泉

7 時、ホテルをチェックアウト。地下鉄、そして机场快速で首都空港の第 2 ターミナルへ。8 時に着いた。そこで IC カードに 100 元チャージ。8 時 15 分、G 20 で MU 5294 便にチェックイン。その後の検査がうるさい。行列になって 20 分もかかった。国内線だがチェックが厳しい。その割には水の持込は OK で、その場で飲めば良い。

結局、太原には10時40分に着いた。お迎えは朱先生と事務の李氏。李氏は旧知の方で、陽気で面白い。予定の変更で観光資源調査となった。行き先は紅色老区文化農業園。高速道路を古交で降りて、炭田地帯の長いトンネルを通過して12時過ぎに目的地に着いた（写真4）。朱先生は観光資源調査と観光地域計画を頼まれたみたい。1時間ほど接待の食事があって、雨の中、現地を見学した。平凡な場所で、河川と段丘があった。水質が良いので、これをテーマとするみたい。そこで、「霊泉」という言葉、そして霊泉を利用した温浴施設の整備を提案した。沸かし湯なので、地元の無煙炭の活用をすすめた。ホテル・キャンプ場・駐車場・農園などの整備となる。山西省では各地でこうした観光開発の話があるらしい。

16時50分、山西大学へ戻り、宿舎で王さんをピックアップ。休暇で宿舎に戻っていたらしい。17時発で王さんの勤務先である神湯都温泉へ向かった。現地には18時40分に着いた。19時から夕飯で5人が出席。食事中、色々話しを伺った。ホテルの宿泊代（朝飯付）は普間398元・高間428元・大間368元とのこと。温泉入浴代は大人168元・子供108元。入浴代は色々かわるらしい。平日は98元もあるみたい。

ロッカーは400人収容で、1日最高は600人の利用で、2014年の清明節（4月5日～6日）は3時間待ちとのこと。2013年10月1日の建国記念日は300人、2014年の旧正月（春節）は500人の利用があった。入り込みの70%がHPを見て、利用している。

当初、ホテルは企業・政府の接待用として企画したが、習近平主席から贅沢禁止令が出て、方向転換を余儀なくされ、現在では普通のホテルを目指しているとか。したがって、外国人の誘致は考えていない。

食事中、次の質問があった。尖閣問題・靖国問題である。いずれも「選挙対策」と答えた。これが模範解答だと思う。それから「日本の大企業が戦争の準備をしているのでは?」とか、「中国の戦争映画に登場する日本の軍人のちょび髭の理由は?」などを聞かれた。「軍人は強く見せるので髭を生やしている」と答えたが、本当のところ理由は知らない。

それから、浦の姓で中国人で有名人がいるとか。その名は「浦安修」。革命家（彭徳収）の妻で、彼は朝鮮戦争の時に活躍した八路軍の副司令官とのこと。

20時30分から、朱先生、李氏と共に温泉施設に入浴。入浴後、彼らは太原へ帰ったみたい。

(3) 2014年4月26日（土）：鳳凰山生態植物園・神湯都温泉

①温泉の実態

朝方、部屋の移動をして広めのVIPルームへ移った。9時から30分ほど王さんの事務所（温泉研究院）で聞き取り調査をした。ここは事務所兼宿舎となる。王さんは2014年1月1日から温泉研究院の院長に就任し、経営の第一線から退いていた。給料も半減したらしい。その分、専門の研究に没頭することになった。自転車を980円で購入し、園内をサイクリングしている。

温泉は4本掘削し、以下の通り。

1号泉：深度地下100m、216L/m、泉温62℃（河川敷で掘削）

2号泉：深度地下140m、300L/m、55℃（河川敷）

3号泉：深度地下100m、少量、30℃、レストラン用（駐車場）

4号泉：深度地下280m、約600L/m、49℃（山の方）

現在、山の方で 5 号泉を掘削中。

②黄土風情谷

9 時 30 分から徒歩で鳳凰山生態植物園へ施設見学に行った。黄土風情谷のところでホテルを建設していた。ビックリ。事務所で話を聞いていたが、半分ほど出来上がっていた。ここは 125 室を予定しており、8 月末に完成予定。黄土に横穴をあけて客室にしており、日本人から見た場合、新しいタイプの客室だと思った。実際、黄土地帯では横穴住居に人が住んでいるところもあるらしい。なるへそ！温泉は付帯しない。

③広報紙「鳳凰山」

10 時過ぎに、王さんと一緒に露天風呂の見学をした。美系の小姐が入浴中で、王さんに撮影を頼んでもらったら、快く後ろ姿なら OK となった（写真 5）。多謝！

11 時から鳳凰山生態植物園の事務所へ。筆と色紙があってサインを求められた。結局、サインペンで書いたが、書面は次の通り。鳳凰山の広報紙に掲載するとか。

「今回で 4 回目です。鳳凰山に来ると、心が落ち着きます。山あり、湖あり、食ありて、空気も美味しくて、パワースポットだと思います。極めつけは、神湯都温泉！入浴すると、心身が癒されます。成分が豊富で、稀な泉質も含まれています。成分は、日本の四万温泉を超えており、八万温泉かも？古代から続く湯脈に感謝しながら、一湯入魂！浦達雄（URA TATSUO）日本温泉協会学術部委員・日本温泉地域学会理事。2014 年 4 月 26 日」

④小院温泉大衆浴

14 時から部屋で 3 時間ほど睡眠をした。17 時から小院温泉大衆浴に行った。いわゆるジモ泉だ（写真 6）。大浴場（裸入湯）1 ヶ所そして客室 12 室中、7 室に温泉施設を付帯している。日本からのお土産を持参したところ、無料入湯となった。お湯はそのつど浴槽に入れるので、清潔だと思うが、部屋の掃除がダメ！前の人を使用したゴミがゴミ箱に入ったまままだし…。

20 時 30 分から 4 人で夕飯を食べた。アンベ首相、つまり安倍首相の話が出た。次回のお土産として No.3 にあたる K 氏から週刊誌（グラビア系）・酒・DVD などを所望された。はい、了解。22 時に接待が終わった。

(4) 2014 年 4 月 27 日（日）：太原⇒北京・新橋飯店

朝、打ち合わせ。今回は温泉施設の設計図、雑誌「ホテル旅館」などを持参することになった。そして週末は忙しいと思うので、平日の訪問を当方から申し出た。10 時 35 分に神湯都温泉の支配人の運転で出発し、12 時前に太原に着いた。昼飯は鍋で、王さんのご馳走となった。3 人で 156 元。その後、空港まで送ってもらって、時間まで電動マッサージを楽しんだ。60 分で 60 元だった。

17 時 30 分発の MU 5297 便は珍しく順調に飛んで北京へ。机场快速と地下鉄を乗り継いで崇文門で降りた。宿泊先は新橋飯店。いまはフランス系のノボテルになっている。温泉があるらしい。3 泊の予定でエクスペディアから予約をしていた。部屋は B 354 で、明日、10 時に国際飯店の張氏が来ることになった。このホテルは 1954 年創業で、北京では北京飯店に次いで 2 番目に古い。2014 年で 60 周年。NHK はチャンネル 8 だった。

温泉は地下 1,400 m から湧いており、60℃ とのこと。サウナなどを営業しており、料金は 188 元。B 座の地下 1 階にあるとか。

(5) 2014年4月28日(月): 菊水亭・チケット手配・急遽帰国

①面白い話

NHKによると九州は雨らしい。本日の予定は10時に張氏・18時30分に王師傅に会うことだ。10時に張氏がホテルへやってきた。彼のお土産は酒2本・甘栗20袋。多謝。

11時から一緒に菊水亭へ行った。昼の食べ放題を食べた、112元×2人。彼からの次回の頼まれモノは日本製タオル2枚・週刊誌・冷蔵庫につける磁石など。彼は身長178cm、ウエストは27インチで、当方と体格が似ていると思う。

管理人と裁判で争っていた電動自転車だが、裁判で勝利し、1,600元を獲得。そこで新車を1,200元で購入したとか。

娘は6月で4歳になる訳だが、通う予定の小学校が取り壊しになるとか。付近も一緒に壊して有名小学校にするとのこと。彼の友人が取り壊し予定のアパートに住んでおり、立ち退き料でもめている。現在の保証金は38万円/m²で、10年前は1万円/m²。すごい値上がりだが、友人は50万円/m²を求めている。ちなみに張氏のマンションの部屋は68m²とのこと。

②日本からの電話

11時14分、日本から電話が連続5回。着信のたびに切れるのでオカシイと思っていたら、その内、通じた。11時22分、電話を受けたら、お袋の入院先からだった。お袋が危篤らしい。困ったことになった。そこで能登の友達へ電話。病院へ行って、次に葬儀屋へ連絡をしてもらった。葬儀屋とは4月の中旬に打ち合わせをしていたので、スムーズにことはすすんだと思う。

さて、どうするか。11時は日本時間12時となる。張氏にANAの電話番号を調べてもらった。明日だと4,500元+オイルサーチャージのチケットがあるとのこと。しかもカード払いOK。結局、支払は5,071元となった。あせっていたので、電話でカード払いをした。

張氏が本日帰国することをすすめたので、目が覚めた。CA(中国国際航空)があると思い、時間とチケット代を聞いてもらった。8時40分発、16時25分発があつて、前者は4,500元、後者は3,200元。結局、本日の16時25分のチケットを買うことにした。

12時50分、4,400元を国際飯店のチケットカウンターでカード払いをした。ANAのキャンセルは500元だった。食事の最中、張氏から香典250元を頂いた。多謝。

国際飯店から彼の電動自転車の2人乗りで新橋飯店へ。大急ぎで荷物整理をしてチェックアウト。3泊を1泊にしたが、後日、エキスペディアに連絡して2泊分を返してもらった。

③帰国、そして…

13時55分、タクシーでホテルを出発。1時間ほどで首都空港へ着いた。タクシー代は120元。CAのカウンターでチェックインをして張氏に感謝の電話。時計屋での時計の受け取り(たぶん240元)、そして今夜夕飯を約束した王師傅へキャンセルの電話をお願いした。何度も王師傅へ電話したが、通じなかったので…。

16時10分、バスで移動して16時25分発CA161に搭乗。16時40分テイクオフ。20時過ぎに関空へ着いた。熊取駅でタクシーに乗って東佐野の宿舎へ。21時15分に到着。PCを開いて新橋飯店のキャンセルを試みたが、ダメだった。これで30分ロスしたが、22時には自家用車で能登へ向かった。葬儀場へは未明の4時に着いて仮眠をとり、7時30分からスタッフと打ち合わせをして家族葬となった次第。奇遇だが、隣の部屋にはお袋の姉の主人が安置されていた。まあGWの北京旅は4泊5日の旅程だったが、今回は6泊にしたので、お袋が早め

に帰るように呼び寄せたと思いたい。

4. 8月の北タイ・メーホンソン県の温泉調査

2014年8月19日から23日まで、北タイの温泉調査に行ってきた。「大阪観光大学とラチャプリユック大学（RPU）との研究及び教育上必要とする分野での交流に関する覚書」で、北タイにおける温泉調査を実施した。この調査は2008年から実施しており、2014年で6回目となった。これまで、バンコク周辺2回、チェンマイ周辺で3回実施した。ところで、ラチャプリユックカレッジ（RC）は2014年6月19日、ラチャプリユック大学（RPU）となった。今回は、チェンマイの西郊で、ミャンマー国境地帯のメーホンソン県へ出かけた。

(1) 2014年8月19日（火）：大阪⇒バンコク⇒チェンマイ

9時過ぎに関西空港へ着いた。まずは両替。円安の関係で率が悪い。10,652円=2,800バーツ（B）。つまり1Bは3.59円。1万円=4,000Bの時代が懐かしい。

11時45分発のTG116便は順調に飛行し、現地時間（時差は2時間）、15時過ぎにバンコクのスワナプーン空港へ着いた。機中で映画をみた。「小さいうち」。

そこで乗り換え。この乗換えが大変で、普段はかなり歩くことになる。しかし、今回は800mの距離だった。16時30分、B6で入国審査。その前に北タイの地図を買った。210B。17時20分発のTG116便は、18時30分過ぎにチェンマイの空港へ着いた。28℃で、大阪と変わらない気温だった。19時10分、ZENで夕飯。2人で220B。宿泊先はガイドの通称サユリさんの自宅で、自称パンティラハウス。一部の部屋を改装して日本人を対象としたロングステイ用の客室にしていた。部屋は2部屋で、リビングと寝室があり、洗濯機・テレビ・冷蔵庫・シャワールームなどを付帯していた。

夜、近くのホテルでマッサージ。時間は1時間。2人でチップ込み600B。ガイドさんは、ロータリアン（ロータリークラブの会員。3月までは代表）で奉仕の精神が素晴らしいと思う。

(2) 2014年8月20日（水）：ジェーソン国立公園・チェンマイ北ロータリークラブ

①ジェーソン温泉

朝食は昨夜買った食パンと果物、そしてコーヒー。9時前にドライバーがお迎えに来た。名前はサーイ氏。チェンマイの温泉調査ではいつも彼がドライバーとなる。ガイドさんの話では道路と温泉のことを良く知っているということで、専用のドライバーに指名をしているらしい。本日は午前中がランパーン県に位置するジェーソン国立公園、午後からマッサージ、夕方からチェンマイ北ロータリークラブでの講演となる。この公園はチェンマイの東郊だが、山を越えるので往復は300kmとなる。

9時にスタート。118号線を北上した。9時20分、見かけた場所に着いた。メーカーチャンである。ドライブイン形式の売店があって、その中心施設は北温泉。足湯と温泉卵が楽しめる。トイレの使用は5B。ドライバーは朝ご飯を食べたみたい。

20分ほど休憩して出発。昨年同様、途中の路面店でガイドさんはハウキを買っていた。40Bを5本ほど。9時50分過ぎにどういう訳か朝ご飯となった。ガイドさんがお腹をすかした

らしい。タイ風のラーメンは35 B。美味しいと思う。

その後、1116、1287、1252などの道路を通過して、11時24分、ジェーソン国立公園のゲートに着いた。ムンパーン村に位置し、周囲にはリゾートが数カ所整備されている。リゾートとは、長期滞在が可能な宿泊施設となる。温泉名はジェーソン温泉(Chae Son Hot Spring)。入園料は車30 B・タイ人40 B・外国人100 B。結局、タイ人料金で入った。

温泉施設の敷地面積は3ライ(1ライ=1,600 m²)、源泉は9本を数える。国立公園は1988年に開園したが、それまで付近は田園地帯であった。温泉施設は同時に整備され、園内には源泉公園・温泉施設(2地区)がある。温泉施設は河川(メーモン川と呼ぶらしい)を挟んで立地している。

泉温は68~82℃で、湧出量は15 L/秒となる。温泉施設は川の右岸21室(個室)、大きな風呂(1室)で、左岸には11室程度(個室)確認できた。右岸の個室で入湯したが、すでに温泉がはられていた(写真7)。入浴料金は大人50 B・子供20 B。タイ人観光客と数名出あったが、入湯というよりは見学が主体。とはいえ皆さんは足湯を楽しんでいた。

ビジターセンターがあり、その玄関先に入園統計の掲示があった。2012年10月から2013年9月までの1年間で14万3,860人が入園し、夏の4月は4万635人の入園とあった。消費額は8,452,474 Bとのこと。事務所のスタッフは4人、右岸の風呂当番は4人、左岸は1人確認できた。その他にマッサージルームがあって、4人の村人が暇そうにしていた。温泉の国立公園立地は、タイにおける温泉地の立地に関して1つの方向性を示している。

②焼き物センター

12時20分過ぎに辞去し、今度は焼き物の見学に出かけた。付近は焼き物が有名らしい。1287、1035を通過して、13時43分頃、焼き物販売センターみたいところに着いた。買い物兼ショールームだと思った。

ガイドさんから色々が進められたが、重いので消費意欲はわかかなかった。15分ほど滞在して、数分走って街中で昼飯となった。タイ式のうどんは3人で200 Bと安い。30分ほど休憩して郵便局へ。ラチャプリユック大学(RPU)の学長への日本からのお土産を送付するためである。ついでに郵便局で北タイの地図を買った。99 B。

③買い物諸々

16時22分、地元のデパートで買い物をした。大阪観光大学の文化祭で売られる商品となる人形を20 B×11個=200 Bで購入した。大学では1個は300円の販売となる。16時30分からデパート内でマッサージ。1時間の足マッサージで400 B(2人、チップ込み)。

ドライバーの話では、明日、メーホンソン県行きで、北回りだと242 kmの6時間、南回りだと350 kmの5時間とのこと。明日は北回りで行って、明後日は南回りで帰ることに決定。ドライバーと言えば、いつもグラビア系が充実している日本の週刊誌を土産として持参しているが、「これは麻薬と一緒に、渡す方の品格が問われる」とガイドさんから言われた。その通りだと思う。

④チェンマイ北ロータリークラブ

18時30分から22時30分まで、チェンマイ北ロータリークラブの会に出席をした。当方は19時30分から30分ほど「HOT SPRING IN JAPAN」というテーマで話しをした。レジメとパワポは英語にして、話しは日本語で、ガイドさんにタイ語で通訳をしてもらった。席上、記念撮影そして記念品(携帯用の中国製魔法瓶)・記念の賞状とか頂いた。出席者は若い

方が多く、しかも女性が多いと思った。陰の話で「英語は話せないのか」と言われたらしい。数名の方と名刺交換をした。次回は写真を多く欲しいと言われた。賞状はスーツケースに入れたが、帰国後に確認したら、ガラスが割れていた。残念。

(3) 2014年8月21日(木)：チェンマイ⇒メーホンソン

①ターバイ温泉 (Thapai Hot Spring)

ドライバーの提案で7時スタートとなった。結局、RPUからは誰も来ないことになった。途中でガソリン(軽油だと思う)を入れた。1,000 Bで32.6 L。車は107、1095号線をひたすら走り、8時26分、以前に訪問したポンデュア温泉の入り口を通過したところで、トイレ休憩となった。ガイドさんは小さな木材の束40 B×2セット、カボチャ20 Bを購入。

9時22分、メーホンソン県パーイ郡に入った。パーイ郡は温泉集中地区として知られる。数分後に、チェックポイントを通過したが、主に麻薬の取締りをしているらしい。付近は牛が多かった。

9時54分、第1の目的地であるターバイ温泉に着いた。国立公園立地で、ゲートでは車30 B・バイク20 B・タイ人40 B・外国人200 B払うことになる。ここは河川の源流で温泉が湧いている。河川はナムメータイ川と言うらしい。

1993年から温泉施設の整備を開始した。それまでは動物が温泉(主に塩分)のしみこんだ砂を食べており、温泉の存在は確認されていた。以前は粗末な浴槽だったが、2011年に現在の浴槽を整備した(写真8)。とはいえ簡易的な浴槽でいわゆる内湯ではなく、水着着用の露天風呂となる。

この地区は2004年に国立公園として追加指定された。ビジターセンターの係りの話だと、公園全体(3ヵ所)ではビジターは1,000万人/年を数え、この温泉施設には10万人の入り込みがある。利用客はタイ人10%・外国人90%で、欧州からの若者が多い。軍事政権になって外国人の利用は減少している。

利用客は100人~500人/日で、やはり冬の時期が多い。11月から1月がピークとなる。宿泊施設はキャンプだけでテントは300張、小型225 B・大型300 Bとなる。見学中、利用者を見ると、バイクで来たドイツ人カップル、イスラエルからの5人組(男2人・女3人)、タイ人男2人組で、いずれも若者となる。全員が入浴や足湯を楽しんでいた。

②パーイの町界隈

10時50分辞去。15分でパーイ川にかかる陸橋に着いた。付近を代表する観光地でメモリアルブリッジと言ひ、日本軍が関係したらしい。日本のガイドブックには乗っていないが、欧米人が沢山見学をしていた。15分ほど見学してパーイの町へ。高原の町のようにカラフルな色彩の建物が目立った。そこで昼飯となった。3人で400 B。主にうどんを食べた。30分ほど休憩して、車で20分ほど行くと、12時10分に中国人村に着いた。南湖山地村と書いてある。雲南省出身の人々らしい。お茶の産地として知られるが、土産品店や食堂もあって、観光地の様相を呈していた。

その後、1095号線を進んで、14時に「タム プラー」(魚の洞窟)を見学した。観光地でここは有名らしい。英語では「フィッシュ ケーブ」と言う。入場料はタイ人20 B・外国人100 B。こうした料金体系は観光立国タイらしからぬ制度だと思う。

③PHU KLON MUD SPA

14時30分に出発し、本日2番目の温泉施設である PHU KLON MUD SPA に着いた。以下、マネージャーの話によると、開業は1995年。経営者はタイ南部のソククラ出身で、前職はガイドで、仕事でタイ国内を回っていて最終的にこの地を選定した。土地は200ライで、源泉は2本、泉質はイオウ系である。しかし、浴槽ではイオウの匂いはしない。深度は100m程度で人工掘削となる(写真9)。泉温は70℃と140℃とのこと。泥は地下2mのものを使用している。開業に当たって経営者はフランスで4年間にわたって泥マッサージの研修をした。現在のスタッフは20人程度。泥マッサージは2000年に開始して、その後、商品化を行って、現在、チェンマイで支店を開業している。開業理由は村の産業振興で、特にカレン族に仕事を与えている。

利用客は、オフの雨季では50人程度/日、オンの乾季では300人/日で、1万人/月を数える。12月5日の国王の誕生日、1月などにピークを迎える。

温泉施設はプール(100人収容)・個室浴場1(2浴槽付帯)・シャワールーム・エステルームなどがある。個室浴場は7室を建築中だった(写真10)。利用客は外国人が大半で、内訳はフランス・スペイン・ドイツ・オランダ・ポーランド・中国・ベルギーからが多い。日本人は少ない。

入浴料金は60B(1人)で、泥マッサージは足20B(15分)・顔80B(15分)・全身700B(60分)となる。その他の施設として売店があって泥関係の商品が売られている。トイレは2B。館内で温泉掘削の写真があった。日付は1995年5月4日とあった。

④メーホンソンの町

15時50分辞去。108号線を走ってメーホンソンの丘に位置するパゴタへ。町の展望台である。16時20分に着いた。10分ほど滞在して中心部のホテルへ。17時にPIYA GEST HOUSEに着いた。1994年に開業とのこと。部屋数は14室。オフシーズンなので、1泊は1,000Bらしい。ゲストハウスの良いところは飲み物がフリーで、ここはコーヒーとバナナがフリーだった。

18時から町の中で夕飯。2人で280Bだった。その後、19時から2時間マッサージ。担当は少数民族(タイヤイ族)の女性だった。マッサージ師は全員同じ村の出身とか。60分は200Bで、2人で2時間だと800Bだが、経営者と交渉をして700Bとなった。その後、おかゆを食べた。30Bで美味しい。この町は国境の町として知られ、欧米人、特に若者に人気があるとか。

(4) 2014年8月22日(金):メーホンソン⇒チェンマイ⇒帰国

①パーボン温泉(Phabong Hot Spring)

朝飯はゲストハウス。バナナ1本・コーヒー2杯。バナナが美味しい。これで十分だと思う。

8時出発。まずはツーリズムオーソリテイへ。町の観光協会かな。市内地図を求めたが、シーズオフということで無かった。30分で第3番目の温泉であるパーボン温泉に着いた。早速、温泉施設の写真撮影をした。車を停めた場所は山側のヘルスツーリズムセンターで、立派な名称だった。駐在する親切な軍人の方に村のリーダーの所在地を伺って、その方のところで聞き取り調査を実施した。

村のリーダーはタイヤイ族の方で、親切に対応をしてもらった。温泉の開発は県で、運営は村とのこと。この付近は、戦時中、日本軍がやってきて寺院に泊まり、道路を整備したらしい。その際、温泉を発見。鹿・牛・鶏などの動物が塩を含む砂を食べており、そこで温泉の存在を確認した。

1953年、総理大臣夫妻が仕事でやってきて、大臣が仕事の際、奥方が温泉にやってき、社交の一環として3,000 B を寄付。そこで温泉の整備が進んだ。しかし温泉は自然の状態であった。

温泉施設の土地は当初1 ライだったが、その後3 ライに拡大した。1992年に温泉池を整備し、現在の温泉施設が完成した(写真11)。投資は数度行い、その額は200万 B・140万 B・60万 B など。温泉施設を囲む塀は60万 B の投資で、2014年には500万 B の投資でプールが完成した。投資者は国・県・旅行会社などで、主に公的資金となる。

現在の経営は村で、地元住民のかけ湯は無料となる。温泉施設は公園を構成し、遊歩道などの中にプール・温泉池・個室浴場群、事務所などが点在している。個室浴場は16カ所(写真12)、その他に大浴場1カ所(水着着用)がある。

利用客のオンシーズンは冬の寒い時の11月から2月で、ピークは12月。現在、12月と1月に温泉施設を経営し、他の月は経営していない。見学だけである。温泉は地下1m から湧いており、泉温は64℃で、外に出ると42℃になるらしい。新規開業当初の年商は30万 B を数えたという。

宿泊施設は無いが、テントが存在する。200張ほど用意し、大テント100 B・小テント50 B。温泉の入湯料金は50 B で、大浴場は500 B となる。

なお、村のリーダーが経営するゲストハウスは2008年に開業した。温泉まで徒歩で5分と近い。客室は26室で、レストランを付帯する。もともとは田園地帯でそれを開発した。宿泊料金は500 B、1,200 B など。県など公務員の利用が多く、1泊が主体だが、3泊もいるらしい。ゲストハウスの屋号はピッサポーン(PICHA POAN)で、娘の名前となる。タイでは子供の名前を利用した屋号が多いと思った。

同席したもう1人の方もゲストハウスを経営し、部屋数は9室。5年間の日本留学経験があるとか。田舎の人は日本も同じだが、とても親切だと実感した。

さらに、レストランで日本人女性にあった。彼女はチェンマイに在住し、夫はフランス人。チェンマイで日本語を教えながらガイドもしており、今回、国境ガイドとして当地に来ていた。

②ノンヘン温泉 (Nong Haeg Hot Spring)

9時35分辞去して、4番目の温泉施設へ向かった。実に良く出来たルートだと思った。水牛が遊んでいる場所を通りながら、10時44分、セブンイレブンでトイレ休憩。

11時24分、ノンヘン温泉に着いた。2011年、クンユエン村が開発し、経営を行った。現在、半官半民の経営らしい。土地は5ライ。

源泉は3カ所で田園の中から湧出している。深度は1.5m で、75℃・65℃、その他に25℃の源泉がある。雨季には竹の子を蒸しているが、温泉卵は1年中楽しめる。温泉は60年前から湧いており、やはり動物が塩分を含んだ砂を食べていた。

付帯施設はプール・シャワールーム・個室浴場(写真13)・足湯(写真14)・コテージとなる。個室浴場は6室で、現在8室を整備している。シャワールームは8室。温泉利用はタイ

人 20 B・子供 10 B・外国人は 100 B。コテージは 4 部屋あって 1 部屋（1～3 人利用）は 200 B。キャンプ場もある。

スタッフは 4 人で、村からの出向者もいた。利用客はタイ人 50%・外国人 50% で、外国人はフランス・イギリス・オランダ・ベルギーなどが多い。若者がチェンマイからバイクでやってくるらしい。年商は 50～60 万 B。営業時間は 8 時 30 分から 19 時まで。雨季の少ない時で 5 人～10 人/日、冬季（乾季）の多い時で 100 人、200 人～300 人/日の利用がある。

事務所では統計を整理していた。1 年間の利用客は 5,000 人から 6,000 人で、2013 年 9 月 120 人・同 10 月は 469 人・同 11 月 586 人・同 12 月 1,500 人を数え、冬季になると利用客の数が増加している。タイ語の温泉分析書もあって、フッ素 9.8 と書いてあった。入浴した経験から見ると、やはりイオウ臭がした。

③メーウムロンルアン温泉

12 時 10 分辞去し、近くでトウモロコシを買った。1 つ 20 B で 6 本購入。やはり美味しい。チェンマイへ戻る途中、山中に温泉があるということで行くことにした（写真 15）。

しかし、山道は大雨の関係で自動車の通行が途中から無理になった。あと 1.5 km 先まで来たが、無念。13 時 50 分のことである。でもガイドさんはたくましい。バイクで蒸した竹の子を運んでいた男性をつかまえて竹の子を購入。5 本で 40 B と安い。母親へのお土産となる。温泉は村の経営で、ドライバーは 20 年前に来たらしい。

その後、平地の HOT という町を経由して一路チェンマイへ。17 時過ぎにガソリンストップ。39.23 リットルが 1,220.4 B だった。その間、RPU からガイドさんに電話があって、9 月 19 日に大学昇格のセレモニーがあるので学長と共に招待を受けた。帰国後、検討する旨をお知らせした。トウモロコシを買った。4 本で 20 B。もち米 5 B。このもち米がまた美味しい。

④チェンマイ

結局、この 3 日間で、ランパーン県往復 300 km、メーホンソン県往復 600 km の合計 900 km のロングドライブとなった。

17 時 20 分、ガイドさん宅（通称パンティラハウス）に到着。ここは家族の住む棟と、タイ語の教室とロングステイを対象とした客室の棟に分かれており、目の前のビルはアパートとなる。つまり 3 棟あることになる。父親は 2014 年 2 月に逝去し、妹も 5 月にガンで死亡。現在、ガイドさんと弟がこの 3 棟を相続する権利がある。母親はウシ年で健在、母と娘の会話は実に面白い。

18 時 50 分、空港近くの 8 番ラーメンで夕飯を食べた。餃子セットなどで、2 人で 148 B。ガイドさんが大飯食いなので、注意をした。

22 時 55 分発の TG 121 便は順調に飛行し、22 時にバンコクのスワナブーン空港へ到着。22 時 40 分に出国検査をした。23 時 30 分発の TG 622 便関西空港行きに搭乗するには、少し厳しいスケジュールだと思う。

機中、映画を見た。「小さいうち」（再度）・「ケロペネスの肖像」など。フライトは 4 時間 50 分だが、到着 2 時間前の朝飯は食べられない。出来れば先に夕飯を頂いて、朝飯は軽食にして欲しい。

日本時間 7 時 5 分に関西空港へ着いた。スーツケースが 11.9 kg と軽いので、JR 東佐野駅で下車。宿舎には 8 時 15 分に着いた。はい、3 時間ほど休息をして、午後から勤務再開！

ところで、チェンマイ周辺の温泉調査は、今回の温泉調査でほぼ概要を把握したが、まだ少

し有力な温泉を訪問していないので、2015年8月に実施したいと思う。しかし、個人的には北タイでの温泉調査は2015年で終わりにし、タイの南部の温泉に機会があれば訪問したい。

5. おわりに

2014年は、タイに2回、中国に3回ほど温泉がらみの海外旅を経験した。行くたびに、新しい発見があって、やはり「継続は力なり」だと思う。そうは言っても、行く気持ちはないといけない。そこで、「継続は努力なり」と、最近は思うようになった。旅は記憶だと思うが、記録も大切だと、以前から思っている。これからも、出来る限り、湯遍路を続けたい。

付記

本報告は今日新聞（別府市の夕刊紙）で、2015年正月号、そして、その後数度にわたって連載した内容に加筆・修正したものである。しかし、今回、紙面の都合で写真及び2回分の旅日記をやむなく割愛した。

残暑の北京・山西省行き（2014年8月26日～9月1日）：主に山西省神湯都温泉の体験。

バンコク・ラチャプリユック大学訪問（2014年9月18日～23日）：大学昇格イベント出席。

ところで、新聞紙の切り抜き「URAの湯遍路旅日記2014」（完成版）（一部を除く）については、大阪観光大学図書館に同名のテーマで収録しており、お暇な方はそれをご覧願いたい。



写真1 小湯山双興温泉浴池の個室浴場（部屋）



写真2 小湯山双興温泉浴池の個室浴場（浴槽）



写真3 石景山游乐园



写真4 紅色老区文化農業園



写真5 神湯都温泉の露天風呂



写真6 小院温泉大衆浴の個室浴場（浴槽）

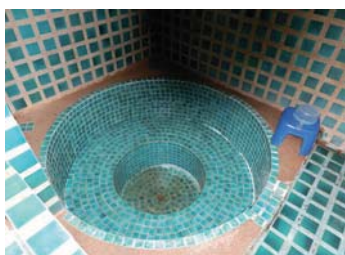


写真7 ジェーン温泉の個室浴場（浴槽）

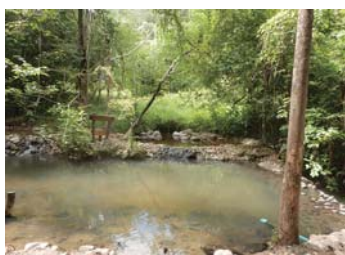


写真8 ターバイ温泉（河川の露天風呂）



写真9 マッドスパの源泉池



写真10 マッドスパの個室浴場（工事中）



写真11 パーボン温泉の源泉池



写真12 パーボン温泉の個室浴場群



写真13 ノンヘン温泉の個室浴場（浴槽）



写真14 ノンヘン温泉の足湯



写真15 メーウムロンルアン温泉の看板